

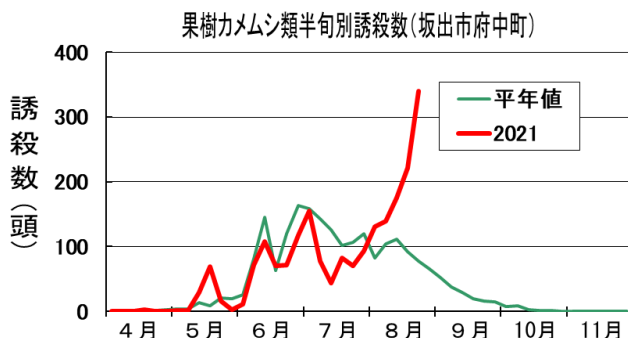
令和3年度病害虫発生予察注意報第5号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

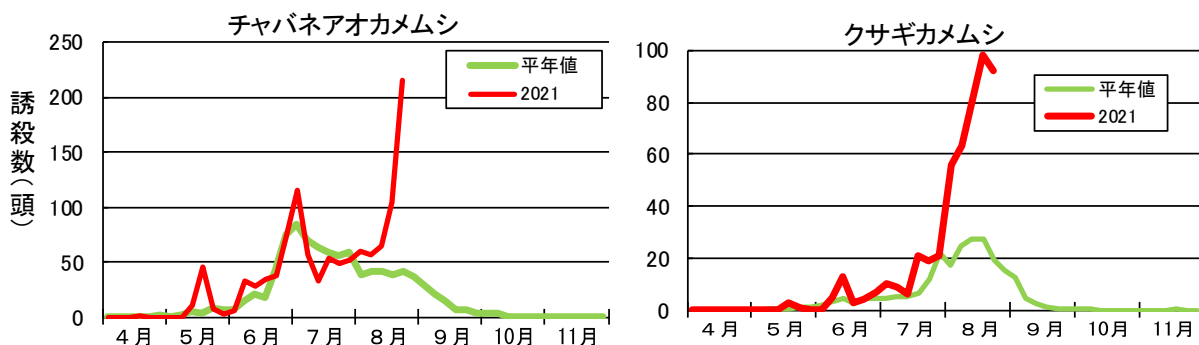
令和3年度 病害虫発生予察注意報 第5号

1. 病害虫名： 果樹カメムシ類
2. 対象作物： カキ、キウイフルーツ、カンキツ、ナシ等
3. 発生が予想される地域： 県下全域、特に山林隣接園
4. 発生程度： 多
5. 注意報発表の根拠

1) 府中果樹研究所（坂出市府中町）の予察灯において、8月第1半旬から第5半旬途中（8月23日）までのカメムシ類（主要4種、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ）の誘殺数は、平年の2.2倍（本年：1008頭、平年：468.2頭）と多かった（第1図）。特に、チャバネアオカメムシの誘殺数は平年の2.5倍（本年：498頭、平年：202.5頭）であった（第2図）。また、クサギカメムシの誘殺数は平年の3.4倍（本年：390頭、平年：115.9頭）であった（第2図）。

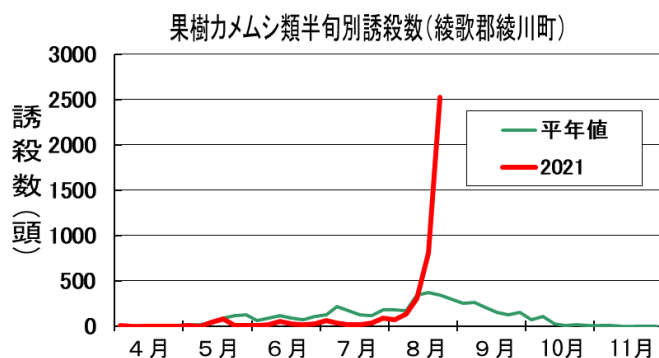


第1図 府中果樹研究所（坂出市府中町）における主要4種カメムシの誘殺状況

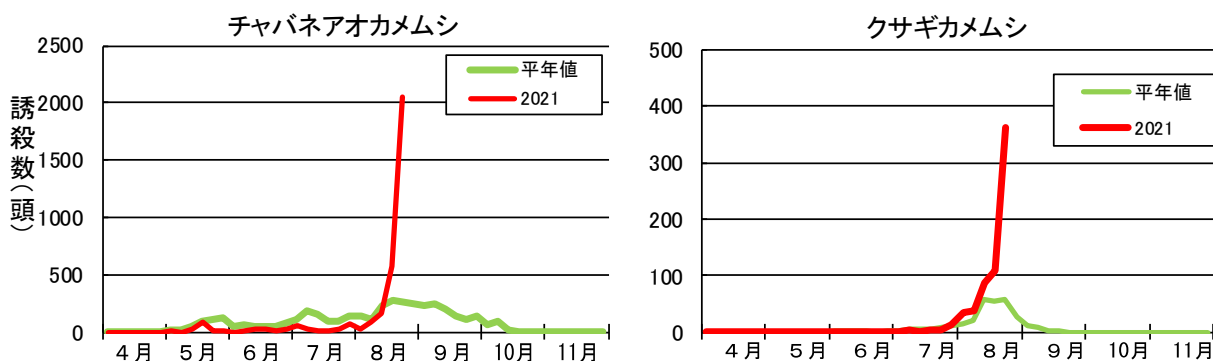


第2図 府中果樹研究所（坂出市府中町）におけるチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシの誘殺状況

2) 農業試験場(綾歌郡綾川町)の予察灯において、8月第1半旬から第5半旬途中(8月23日)までのカメムシ類(主要4種、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ)の誘殺数は、平年の2.8倍(本年:3,837頭、平年:1,384.9頭)と多かった(第3図)。特に、チャバネアオカメムシの誘殺数は平年の2.8倍(本年:2,900頭、平年:1,021.7頭)であった(第4図)。また、クサギカメムシの誘殺数は平年の3.1倍(本年:631頭、平年:203.3頭)であった(第4図)。



第3図 農業試験場(綾歌郡綾川町)における主要4種カメムシの誘殺状況



第4図 農業試験場(綾歌郡綾川町)におけるチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシの誘殺状況

- 3) 8月23日の巡回調査において、既に綾歌郡綾川町のカキでの吸汁被害が確認されている。
- 4) 以上のことから、今後、県下全域のカキ、キウイフルーツ、カンキツ、ナシ栽培園(特に山林隣接園)において、被害が多発することが懸念される。

6. 防除対策

- 1) 施設栽培の場合は、開放口をネット(4mm目合い)で覆うとカメムシ類の侵入防止対策となる。
- 2) 圃場内をよく観察し、被害果実やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に防除を実施する。特にスギ、ヒノキ等が周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意する。
- 3) 多発してからの防除は効果が劣る場合があるので、発生初期の防除を徹底する。
- 4) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的である。
- 5) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果があるが、ほかのカメムシ類には効果がないので注意する。
- 6) 防除薬剤は、香川県農薬情報システム内で香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針採用農薬を検索するか、香川県果樹研究同志会が発行している果樹病害虫防除暦等を参考にする。

- 7) 薬剤の特徴は、有機リン剤は即効性だが残効が短い。合成ピレスロイド剤は残効が長く殺虫効果だけでなく吸汁阻害効果があるが、天敵に影響を及ぼすため連用するとカイガラムシやハダニ類が急激に増加することがあるので注意する。
- 8) 作物によって、登録のある薬剤が異なるので、使用にあたってはラベルをよく読んで、登録の有無や収穫前日数、使用回数等使用基準を遵守する。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。
農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に
使用できているか、チェックしましょう。

*養蜂が行われている地域では、養蜂関係者と情報交換等の連携を緊密に行うとともに、農薬使用に際しては、養蜂関係者に対し、事前に農薬使用の予定の情報提供を行い、危害防止対策を講じましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ
URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>